

土木学会 コンクリート委員会
平成 21 年度 第 2 回 規準関連小委員会 議事録

1. 日 時：平成 21 年 5 月 18 日(月) 14:00～17:15
2. 場 所：土木学会 EF 会議室
3. 出席者：橋本親典委員長，鎌田敏郎幹事長，浦野真次，江口和雄，片平博，岩波光保（代理：加藤絵万），黒井登起雄，新藤竹文（代理：坂本淳），武若耕司，田中秀樹，椿龍哉，寺村悟，野村倫一，原田修輔，八木圭太郎，横関康祐，野島昭二(記録)の各委員(以上 17 名)
4. 配布資料：
 - 2-0 : 平成 21 年度第 2 回規準関連小委員会議事次第
 - 2-1 : 平成 21 年度第 1 回規準関連小委員会議事録(案)
 - 2-2-1 : 土木学会行事に関する収支決算書(案)
 - 2-2-2 : 講習会質問表
 - 2-3 : 土木学会規準関連小委員会 委員構成 (案) (平成 21 年度)
 - 2-4 : プレストレストコンクリート用シースの試験方法 (案) 関連資料一式
 - 2-5-1 : コンクリート標準示方書 2007 年制定 [規準編] 改訂資料 (案) 平成 20 年 5 月
 - 2-5-2 : 改訂目次案 (セメント, 骨材, 混和材料 WG)
 - 2-5-3 : 改訂目次案 (鋼材, 補強材 WG)
 - 2-5-4 : 改訂目次案 (フレッシュコンクリート WG)
 - 2-5-5 : 改訂目次案 (製品, 施工機械等 WG)
 - 2-5-6 : 改訂目次案 (補修, 注入材料 WG)
 - 2-6 : コンクリート技術の温故知新 (四国支部講習会の案内)

5. 議事内容

(1) 委員長挨拶

橋本委員長より，講習会に関するお礼と，講習会の収支は黒字で決算する旨の報告があった。常任委員会の日程について，説明があった。

(2) 前回議事録の確認（鎌田幹事長）

資料 2-1 に基づき，前回議事録(案)の説明があり，承認された。

(3) 4 月 17 日の講習会の報告

橋本委員長，ならびに鎌田幹事長より，講習会の報告がなされた。

資料 2-2-1 のとおり講習会は，190 千円程度の黒字となった。黒字額の 6 割が，次年度予算に繰込まれることとなる。

余っているコンクリート技術シリーズ 84 号は、本委員会の委員が利用できる。橋本委員長より、資料 2-6 に示す四国支部主催で、コンクリートライブラリー131 号（古代ローマコンクリート）と合同の講習会を開催し、50 部を参加者に無償配布し、次期規準編の宣伝として使用する提案があり、了承された。他の委員で利用予定がある場合には、鎌田幹事長へ申し出ることにした。

講習会の聴講者からの質問事項は資料 2-2-2 のとおりである。質問の対応を各担当 WG に割り振った。各 WG 主査は、回答案を作成し、橋本委員長、鎌田幹事長に提出することとなった。

(4) 平成 21 年度委員会委員(委員交代) について

資料 2-3 を用いて、平成 21 年度の委員構成、ならびに作業部会の説明がなされた。

岩波委員→加藤委員，新藤委員→坂本委員，新任=鶴田委員，エポ PC 鋼材→名取委員，黒井委員→日比野委員，武若委員→山口委員。伊藤委員→辻本委員は 7 月の常任委員会で交代となる。

(5) 2010 年制定版作成に向けての各 WG での目次案件等について

①全体

鎌田幹事長より、資料 2-5-1 を用いて改訂作業の概要説明がなされた。

3.改訂の基本方針にしたがい修正等をしたものは、2010 年版に制定される規準編となる。

②製品，施工機械等 WG

原田委員より、資料 2-5-5 を用いて、目次案の説明がなされた。

- ・プレキャストコンクリート用樹脂系接着剤（橋げた用）品質規格については、その[適用範囲]の項に【備考】として「エポキシ樹脂系品質規格」との関係について示し、これまでの経緯がわかるようにするのが良い。その上で、規準番号は変えずに年号を新しくする。
- ・プレキャスト製品の JIS が改正される予定（今年 6 月）である。

③セメント，骨材，混和材料 WG

片平委員より、資料 2-5-2 を用いて、目次案の説明がなされた。

- ・海砂の塩化物イオン含有率試験方法(JSCE C502 2007)における硝酸銀溶液に関する数値の修正が行われている件についても今回の見直しに含める。
- ・JIS 規格で、JIS 改正等に伴う改訂がある。

④鋼材，補強材 WG

椿委員より、資料 2-5-3 を用いて、目次案の説明がなされた。

- ・規準番号は変わらず規準名称が「エポキシ樹脂塗装」→「樹脂被覆」の変更が生じるものについては、その経緯を[適用範囲]に示すようにする。

⑤フレッシュコンクリート WG

橋本委員長より、資料 2-5-4 を用いて、目次案の説明がなされた。

- ・ 土木学会規準の漏斗試験 2 件 (JSCE-F 531 と JSCE-F 541) の修正があることが説明された。また、黒井委員から、4 月の講習会で提案された施工性能に関する試験方法を土木学会規準に入れてはという意見があり、次期 FC 主査の橋本委員長が中心となり、検討することになった。
- ・ 関連規準として、単位水量の試験方法については建築学会の CTM の掲載を検討したいが、掲載料等に関する調査が必要である。
- ・ フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法 (JIS A 1144) が改正となっている点に留意する。

⑥補修、注入材料 WG

江口委員より、資料 2-5-6 を用いて、目次案の説明がなされた。

- ・ 土木学会規準として、表面含浸材、はく落防止、脱塩、再アルカリ化後の表面被覆について、新規に規準を提案予定である。
- ・ 2010 年の改訂に間に合うかとの意見があり、ベースとなる試験方法がすでにあるので、規準化の行程に問題ないとの回答があった。
- ・ JIS に関しては、分類 Z の中身について、この Z に含めるべきものとそれ以外に移したほうが良いものについて見直してはどうかという意見が述べられた。

⑦硬化コンクリート WG

- ・ 圧縮クリープの JIS が制定されるとのコメントがあった。
- ・ 膨張コンクリートの凍結融解の試験方法を新規に規準化する必要があるとの意見があった。

⑧全般について

- ・ 上述のエポキシ接着剤、樹脂被覆鉄筋などのようにタイトルの変更など、改訂経緯の説明が必要な事項は、[適用範囲]等に入れたらどうかとの意見があった。

(6) プレストレストコンクリート用シースの試験方法規準原案について

樁委員より、資料 2-4 を用いて、小委員会の意見と WG の対応について説明がなされた。

プレグラウト鋼材に用いるシースには適用しないことを原案に追記する。

- ・ 試験方法の手順は、項目番号ではないほうがよいとの意見があった。
- ・ 46, 47, 49, 50 は目的が試験名称となっていないため、試験名称に「抵抗性」を入れることが望ましいとの意見があった。
- ・ 54 の図 1 と図 2 の関係がわかりにくいとの意見があった。
- ・ 修正版を 6 月 25 日までに、橋本委員長、鎌田幹事長に報告することとなった。
- ・ 今後の予定としては、6 月 29 日までに常任委員会幹事会に提出し、7 月 7 日の常任委員会で提案する。1 ヶ月程度の審議期間ののち、常任委員の意見の修正を行い、9 月 1 日の常任委員会に修正案を提案し承認を受け、各試験に番号を付け、その概要を土木学会

論文集に投稿する。最終的に、2010年制定規準編に掲載する。

(7) 次回委員会の開催日時について

新委員で調整し、決定することとなった。7月下旬から8月初旬の予定。

以上